

国際比較調査からみる日本の大学教育

日 時：2026年2月2日（月）13：30～15：50
会 場：オンライン開催
主 催：日本私立大学協会附置 私学高等教育研究所

山田氏を代表とする研究グループは大学生のグローバル・コンピテンス（以下GC）の習得に関する国際比較調査を2020年から開始し、通算5回行ってきた。2022年にはWithコロナ時代をキーワードとして日米韓台豪の大学生・大学院生を対象にGCの習得と教育経験の5ヵ国間比較調査を実施し、ポストコロナ期の2024年にも継続調査を行い、オンライン授業の活用という新たな大学教育の実態とGCの獲得状況を把握した。本研究会では、2022年データと2024年データを比較しつつ、国による差異あるいは日本の特徴を提示しながら、日本の大学教育の課題について考えたい。

講演1.「継続的国際比較調査から見てきた日本の大学教育の特徴と課題」（13:30～13:50）

講師：山田 礼子 氏（同志社大学社会学研究科・学部教授、高等教育・学生研究センター長/本研究所研究員）

概要：本報告では、これまで行ってきた大学生のグローバルコンピテンスの獲得状況についての国際比較調査の知見を示し、それらから見てくる日本の大学教育の課題について提示する。その後、特にコロナ禍を経たWithコロナとポストコロナ期に実施した5ヵ国・地域調査の趣旨と全体像を示し、後の2人による詳細な分析と問題の把握、課題の提示へとつなぐ。

講演2.「ポストコロナ期における大学生の学習状況 ー対面・オンライン授業との関連ー」（13:50～14:30）

講師：杉谷 祐美子 氏（青山学院大学教育人間科学部教授/本研究所研究員）

概要：本報告では、ポストコロナ期にあたる2024年現在、各国の大学において対面式とオンライン式のどちらの授業方式を取り入れながら、グローバル・コンピテンスの涵養に資する能動的・協働的学びが展開されているか、大学生の学習状況を分析する。日本の大学教育および大学生に特徴的な傾向を示し、その教育的含意を考察するとともに、今後の学習の充実に向けた課題について検討する。

講演3.「国際比較からみた日本の学生の回答特性と課題」（14:30～15:10）

講師：白川 優治 氏（千葉大学大学院国際学術研究院教授/本研究所研究員）

概要：本報告では、2024年の5ヵ国・地域の調査をもとに国際比較調査における日本の学生の回答特性を紹介する。具体的には、日本の学生の回答はほぼすべての設問で相対的に平均値が低く出ること、他方で、常に平均値が高く出る他国があることを示しながら、このことから見てくる調査結果を解釈する際の課題を提示する。

休 憩 （15:10～15:20）

パネルディスカッション（15:20～15:50）

お申込み

日本私立大学協会webサイト（<https://www.shidaikyo.or.jp/>）“トピックス”の公開研究会の開催案内から「申込フォーム」に記入の上、2026年1月28日（水）までにお申し込みください。終了後に期間限定で行う録画配信をご希望の方もお申込みください。

○参加料は無料です。

○お申し込み時に登録されたメールアドレスに、申し込み完了の自動返信メールが送信されます。15分経過してもメールが届かない場合には、お手数ですが研究所までご連絡ください。

○本公開研究会は、web開催です。視聴用のURLと配布資料は、お申し込みいただいたメールアドレスに、**開催日前日迄**にご案内いたします。

○ご登録いただいた情報は、本研究所の事業運営に必要な範囲に限って利用いたします。

○講演内容等は変更になることがございます。

○録画・録音・撮影は、禁止とさせていただきます。

【問合せ先】日本私立大学協会附置 私学高等教育研究所 担当：坂下 景子、三井 渉

TEL：03-5211-5090 / MAIL：info@riihe.jp